

ロータリーの歴史から学ぶ

3. Guy Gundaker から学ぶロータリー

1) 「A Talking Knowledge of Rotary」について

「A Talking Knowledge of Rotary」は、ロータリー誌「THE ROTARIAN」の1916年4月号、5月号、6月号、7月号に掲載された Guy Gundaker の原著に基づき、国際ロータリークラブ連合会の Committee on Philosophy and Education <理論・教育委員会（委員長：Guy Gundaker）>によって編集された4冊のパンフレットから成る小冊子です。



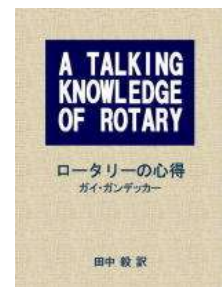
Guy Gundaker

内容は、当時のロータリーの一般奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化したもので、史上初めてのロータリーの教科書・解説書と言っても良いでしょう。実際、1916年7月に開催されたシンシナチ大会で、「ロータリーのクラブ管理運営のテキスト」として採択、認証されています。また、その前年のサンフランシスコ大会で採択された「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓（道德律）」の全文も掲載されており、「道德律」の普及にも大いに貢献したと言えるでしょう。

Guy Gundaker（1873～1960）はフィラデルフィア・クラブの創立会員の一人で、職業分類はレストラン経営です。出身はペンシルバニア州で、コーネル大学、ペンシルバニア州立大学法学部を卒業し、1902年に弁護士登録をしています。その後、レストラン経営に転じていますが、全米レストラン協会を結成して「レストラン協会の道德律（職業倫理訓）」を作ったことでも知られています。

実は、彼は1923-24年度のR I会長です。したがって、日本人が重要視している「決議 23-34」の採択時（1923年6月）はR I会長エレクトでしたが、その決議文には「A Talking Knowledge of Rotary」の内容が色濃く反映されているのです。また、1923年（大正12年）の日本の関東大震災に際し、R Iその他から東京RCへ総額89,000ドル（42,000ドルという説もあり）の義援金を贈ってくれたのも、Guy Gundaker でした。日本にとっては、とても縁の深い人物なのです。

「A Talking Knowledge of Rotary」の日本語版としては、「ロータリー通解（小堀憲助：訳並びに解説）」と「ロータリーの心得（田中毅：翻訳）」とがあります。ロータリー原理を基礎から学ぶ入門書としては、私は最適な教科書だと思います。



本書の根本は、「入りて学び、出でて奉仕を实践し、世間から信頼・尊敬される素晴らしい真のロータリアンになろう」です。学ぶ際に気をつけて欲しいのは、『奉仕』を今のように「クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、国際奉仕」のように分割したものとして考えてはおらず、「広い意味での社会奉仕（家庭、職場、業界、地域社会など、あらゆる場面での奉仕）」として捉えていたということです。

本稿では、「A Talking Knowledge of Rotary」の内容を紹介しながら、Guy Gundaker の意図するところ、ロータリアンとして我々が留意すべき点などについて、若干の解説をしていきたいと存じます。